

後世への継承が必要

岡屋考古館フォーラム

大昔調査会



一般社団法人・大昔調査会は20日、岡谷市本町の岡屋考古館の歴史的意義を検証するための「岡屋考古館フォーラム」を同市イルファルチャーセンターで開いた。歴史や文化財に興味のある人、地元関係者らが参加。老朽化が著しい施設の現状を知り、後世へと受け継いでいく必要性を実感し、保全活動の機運を醸成した。（浜武司）

同館は、縄文から古墳時代にかけての住居跡が発見された岡屋遺跡の遺物を収蔵展示する施設として、市民の寄付によって1962年に岡谷十五社境内に建てられた施設。築60年を経過し、天井の剥落や雨漏りなど老朽化は著しく、今後の在り方について考える時期に来ている。

フォーラムでは、調査会副理事長の三上徹也さんが岡屋遺跡の概要と考古館建設の経緯を説明。同遺跡について「発掘には当時の中高生も関わった」とし、「縄文前期から奈良時代直前までの住居跡などが見つかった複合遺跡で、狭い範囲で長い期間継続して人々が生活していた珍しい遺跡」と歴史的価値を強調した。

考古館については「現在は管理者がいない状況」とした

↑ 岡屋考古館の重要性と保全の意義を再認識したフォーラム

上で、「当時の住民でつくった岡屋遺跡保存会が自発的な意思と努力で造った文化財保護の貴重な事例」とし、先人の保護の精神を継承する必要性を訴えた。

このほか同調査会メンバー

の坂間雄司さんが、同館を月1回開館して館を継承している調査会の取り組みを紹介。また諏訪市文化財専門審議委員の二村悟さん（神奈川県）が、同館の建築学的重要性和保存の意義を語った。